

イギリスの作家、C.ディケンズが書いた『クリスマス キャロル』というお話をご存知ですか？

『けちゃんぼで 心の狭い スクルージ爺さんは、金儲け一筋で一生を送ってきました。人を信じない彼はいつでも不機嫌で 誰に対しても冷たく、街中の 大人からも子ども達からも 嫌われていました。そして何よりも 1年中で1番、クリスマスという日が嫌いでした。今年も 間もなく その日が やって来ます。スクルージは、クリスマス・イブの夜、皆がお祝いしながら喜んでいる賑やかな声に 耳をふさぎ、忙しく仕事をした後、一人で街から逃れるように足早に帰宅しました。するとそこに7年も前に亡くなった友人かつての共同経営者のマーレイが 鎖に繋がれた悲惨な姿の幽霊として現れ「この惨めで不自由な格好の理由は、スクルージと同じように金銭欲にまみれた人生を送ってきたからだ」と語り、生き方を変えるよう諭します。そして 3人の幽霊（過去、現在、未来のクリスマスの霊）を スクルージの元へ 入れ代わり送ります。最初に現れた 過去のクリスマスの霊は、彼がまだ純粋な心を持っていた 貧しくも楽しかった少年時代、愛を交わした大切な恋人を 彼の心の 欲によって失ってしまった 青年時代に連れて行きます。忘れかけていた かつての自分の姿を見せられ、スクルージはどうしようもない 悔恨の想いを抱きました。次に現れた 現在のクリスマスの霊が見せたのは、彼の事務所で仕事をしているボブの明るい家庭でした。スクルージが ボブに支払っていた給料は 僅かでしたが、食事を分け合い 幸せそうに暮らしていました。けれども そんな家族のたった一つの悲しみは 末の小さな男の子の 重い病気のことでした。ささやかなクリスマスのお祝いは その子の死を予感させるもので、家族や男の子自身の本当の想いを初めて知ったスクルージは なんとかして その 末の男の子の病気を治してやりたい！と 必死に 願うのでした。でも 3人目の未来のクリスマスの霊が導いたのは、既に亡くなってしまった末の子の墓前で、ボブが奥さんと共に嘆き悲しんでいる様子でした。彼にとってそれは耐え難く大きな衝撃でした。ところが その直後に霊が指さした別のお墓を見ると そこには「スクルージ」と自分の名前が刻まれていたのです。自らの暗く孤独な死を目の当たりにし、愕然としながら 目が覚めた彼は、その瞬間 真摯に自分自身と向き合い 立ち返りやり直すことを決意します。前夜の 3人の霊との出会いにより、スクルージは クリスマスの朝すべてを一新しました。そして これまでとは全く違った生き方へと 心の向きを変えたのです。いつも悪態をつき 困らせていた 甥っ子の家を訪ね クリスマスを一緒にお祝いしました。ボブの給料を上げて 末っ子の治療費を まかなえるようにしてやりました。自分に借金のあった人達から 一切の負債を赦し また、ずっと断り続けていた寄付を あちこちに捧げました。クリスマス・イブの 一晚の出来事を通してスクルージは、人間の本当の幸せとは、お金を人から儲けることではなく、周りの人達と分かち合い 皆で互いに豊かになることなのだと気づきます。欲のために忘れてしまっていた人間愛を取り戻し、誰にでも優しくなり、誰からも愛され、心満たされる喜びと深い感謝に溢れる人生へと 変わることができました』

スクルージの姿を通して、自らの弱さや かたくなさを 突きつけられるような思いがしますが、人が自分自身を振り返り、見つめ直す機会を与えられた時、真実の心へと 素直に 立ち返ることで与えられる赦された喜びと感謝は 神様からの豊かな祝福と恵みであり 人として大切な心の在り方に気付かされる、心洗われる物語だと思います。クリスマスの訪れが近づくたびに 心静かに 読み返したくなる一冊です。

今年も 間もなく クリスマスが やって来ます。先日の クリスマス保護者会には お忙しい中 ご出席くださいまして ありがとうございます。拙い語り手の話にも 長い時間 耳を傾けて下さり感謝でした。帰り際、あるお母様が 会の内容についての感想を お話し下さった後 一層ニコニコされて言われました。「せんせい！わかりました！クリスマスって イエスさまが プレゼントそのもの！ということですね」「そのとおりだよ」と 神様の御声が 聞こえた気がしました。クリスマスとは 神様の 愛そのものです。2015年前 神様が イエス・キリストを この世に送られたのは、人としての生涯、その生き方を通して、神様の存在、その深い御心を明らかにし、私達人間を もう一度 神様の永遠の愛へ立ち返らせるためです。スクルージ爺さんのように 長い間 固く閉ざし、冷えた心を持った人でも、神様は 人の優しさを通して 愛を注ぎ、扉を開かせ、温かく包み、変えて下さいます。クリスマスに イエス・キリストの愛が すべての人の心に届きますように★Merry Christmas★「インマヌエル（神は私たちと共におられる）」（石田 記）